

## 代表 竹本 志津馬

花を贈る人の気持ちと想いを  
相手に伝えるお手つだいをしたい

竹本 志津馬(たけもと しづま)

1966年9月12日生まれ。静岡県立静岡農業高等学校卒業後、タキイ研究農場付属園芸専門学校(滋賀県)に進学し、農業・園芸の基礎を学ぶ。その後、日本フロリスト養成学校を経て、東京都の生花店に就職。2000年しずてつストアみずほ店開店時に、同店舗内に生花店「しずてつストア 花だより」をオープン。趣味は陶芸。「花器をつくりたいと考えたのがきっかけ。集中して、無になるところが魅力」と話す。

生花販売や生け込みサービス、フラワーアレンジメント講師など、花にまつわるさまざまな事業を手がけているしずてつストア花だより。代表の竹本志津馬さんは、東京や静岡の花屋で修業した後、2000年にしずてつストアみずほ店内に店舗を構えた。花を飾りたい、花を贈りたい、花のことを知りたい…お客さまの要望はさまざまです。一つ一つの声にしっかりと耳を傾け、お客さまに喜んでいただける仕事ができるように心がけています。

「花を贈りたい」という相談があった時には、贈る目的や渡す相手のこ

とを聞き、花を選ぶようにしている。「渡した花はいずれ枯れてしましますが、花を贈った時の記憶はいつまでも残ります。花を渡す方の思いをしっかりと伝えられるお手つだいをすることが自分の役目です」。

毎年、一人か二人、プロポーズをするための花束を買いにくる人がいるという。「お客さまにとって、プロポーズは一生に一度の大舞台です。その相談を当店にお寄せいただいたことに喜びを感じます。だからこそ、後日、お客さまから「上手くいきました」という報告を受けた時は、本当に嬉しく思います」。余談になるが、一つ一つ

の花に花言葉があるように、バラの本数にも意味があるという。「1本は『目ぼれ』、3本は『告白』、9本は『いつまでも一緒にいよう』など、意味があります。プロポーズの時には108本バラで『結婚してください』という意味を持ちます。ほかにも365本は『毎日恋しくたまらない』、999本は『何度生まれ変わってもまたあなたを愛します』と、本数によりいろいろな気持ちを伝えられますが、さすがに999本のバラをお買い求めになられたお客さまはいませんね(笑)」。

今年で53歳とは思えない若々しさの持ち主だ。「東京で修業していた時、お店の店主であり、私の親方でもある女性から、お花の仕事に携わるなら、男性でも、女性でも、いつまでも、色っぽく、艶っぽくしていなさいよ」と教えられました。当時まだ20代前半だったので、その言葉の真意をくみ取ることができませんでした。が、花の仕事が続いていく間に、少しずつ意味がわかるようになりました」と話

す。中学の同級生で、1992年に結婚した奥様(晴子さん)に、年4回花を贈る日を決めている。夫婦そろって楽しみにするのは孫に会うこと。「じいじとばあばになりましたが、孫は本当にかわいくてたまらない」と夫婦そろって目を細める。